

四谷の

千枚田だより



第 162 号

なんかいらんじゃん」と返事が返る。そうだ、そこでチョッ

棚田保全と獣害

今、四谷の千枚田は愛知県の二大景勝地とか、市、県の顔、国の宝と持てはやされている。特に、三遠南信道路、新東名開通後は見学、来訪者がおびただしく増加、新城市、奥三河の集客に大きく貢献していることは歪めない事実である。

おかげで都市近郊から「癒し」を求め、やって来る見学者などが農道をいっばいになって歩き、なかなか道を開けてくれない。あわただしい農繁期の最中、軽トラも遠慮がち、流石のお人好しの棚田の百姓も「やんなっちゃう、休日はお休みだ」と嘆くほど人が押し寄せる。

四谷の千枚田の周辺には自動販売機もコンビニも全くなく、全国に誇る「ゴミ」の無い環境を重視した棚田でもあり、金儲けに頓着の無い連中の集まりだ。

見学者の中には「自販機はないか」と聞かれるが「あんな、何よお言っとるだん・こんな美味い空気を吸って、甘ったるいジュース

ト「捕らぬタヌキの皮算用」で試算してみた。

例えば、日頃、家業や会社で嫌々ながら働く皆んなが四谷の千枚田から戴く「癒し」の価値をお金に例え、一人千円のうっ憤、寿命にプラスになったと換算すると昨年は二万五千人以上が訪れたことから二千五百万円の皮算用になる。どえらいことだ、俺んとうは(千枚田)金儲けに興味はないが、よかったら新城や奥三河で「まんま」でも食ったり、「お土産」をどさまく買って行ってくれりゃあ、それでいいだん・と、太っ腹だ。

いずれにしても、この生産性が低く作業効率が極端に悪く、厳しい棚田が保全されているのは百姓の弛みない努力であることが、やや認識に乏しい感があるでもない。顔や宝と持て囃されているのも地を這いつくばって頑張る百姓の根底があつてからこそだという事をお忘れなく。

国民の税金を費やして立派な農

道も作っていたいただき農作業効率は格段に向上した。これこそ先祖の築いた偉大な遺産を保存継承に尽力する百姓に天が微笑んでくれたものと、頑張りに頑張り続けている。

平成十二年頃からイノシシが、十七年には茶臼山から北設を經由しニホンジカが来遊、アツという間にほぼ市内全域に拡大、サルも同様に拡大をみせ、農産物被害は甚だしい。その対策として国・県・市では害獣被害防止のために侵入防止柵の設置を推進し、各地で設置されている。

四谷の千枚田は景観に優れ、訪れる人も多いことから無粋な網を張ることなどはお互いに自粛、設置の話も出なかった。これも我慢をしていただけのこと、千枚田でイノシシやシカが入らない田んぼはよほど不味いコメかと言われるほど被害は大きい。ここに至り、流石の百姓もこのままでは耕作意欲が消失、「田んぼを止めるか、守るか」いろいろと思索の結果、外来者や景観に配慮、網が見えない山野沿いに設置しようとして(一部を除き)話が纏まり、行政へ要望した。

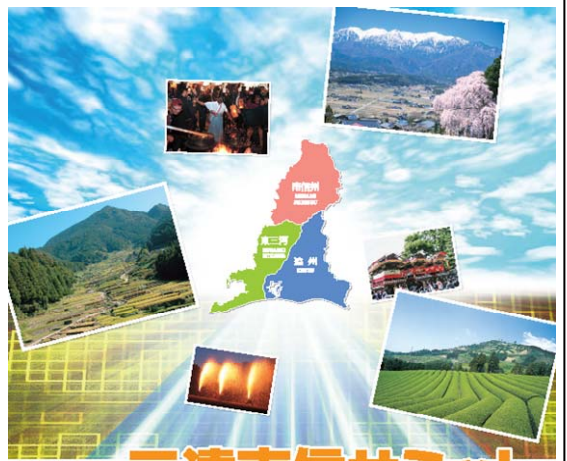
よく考えてみると景観だ、顔だと謳われ、今の知名度を築き上げたのは棚田の百姓の弛みない努力であ

り、メディアや行政、その他諸々はその上っ面を勝手に宣伝しまくっている。(舜も七十六歳のいっこくな老害爺になってしまった)

そんなこんな現状を、軽い悩みそがグルグル回るほど悩みあげた挙句、市長さん、議会議長さん、地元市議員さんに窮状を訴えらるとともに「侵入防止柵設置」に行政も千枚田の一員であることを提言、良い知恵をいただき「名勝 四谷の千枚田」の今後に助けを求めた。

感触として、さすがに市政のトップの方々、住民の声として、また、行政サイドからも「千枚田」の位置づけに大きな理解を示され、侵入防止柵設置協力のお願いにも好意的に酌みとっていただき、心地よい気持ちで庁舎に頭を下げ帰路についた。・・晩酌が何時になく旨かった。





第24回 三遠南信サミット 2017 in 南信州

【テーマ】「みち」がはぐくむ三遠南信の未来

平成29年
2月15日水

会場 榎田文化会館(榎田市美羽町6-5-1)
シルクホテル(榎田市藤町1-1-0)



国は東京への一極集中に歯止めをかけ、地方への人の流れをつくる「地方創生」に取り組みとともに「地方分権」を推進しており、地方においては官民協働や広域連携の重要性がますます高まっている。

このサミットは平成五年に三河・遠州・南信州の県境を越えた歴史的かつ地理的な深いつながりを礎とし、実績を積み重ねてきた。

こうした中、平成二十八年三月に国が公表した新たな中部圏広域地方計画においては、グローバル化に適応した中部圏の取組となるリーディングプロジェクトとして「広域性の先進をいく三遠南信地域連携」

ため、三地域の首長や国・県等々の行政機関、住民が三遠南信の地域づくりの展望について議論する大事な場である。(舜)も昨年は「道」分科会において住民代表発言者として三地域の首長さんとパネラーの席に着いた。

サミットでは、要望を継続した三遠南信道路の「鳳来挟IC」開通は奥三河・遠州・南信州などに集客・利便性・過疎対策などからみて大きな役割を果たしたと思う。

サミット当日、自由参加できます。閉校一年を振り返って

早いもので、連谷地区最後の砦「連谷小学校」が閉校になって一年

を位置づけられている。

今後、「道」・「住」・「風土」・「山住」をテーマに様々な分野における県境を越える連携を現代の「塩の道」に例え、自立的な広域連携都市圏の形成をより強固にする

になる。二人の子供は自宅近くからスクールバスで鳳来寺小に通学、四校統合の学童と楽しく勉学に勤んでいるようだ。豊鉄定期バスも「四谷千枚田口」として運行され、中学生や一般、千枚田見学者などに利用されている。



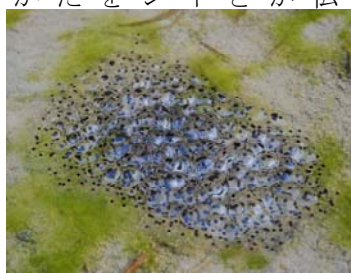
さて、廃校になった跡地は今のところ利活用の話題もなく地域にとって大きな問題である。

公民館・コミュニティは母校でもあり地域の核であった廃校施設を

「ほかつとくわけにやあ、いかんじやんかん」と草刈り、草取り、花壇の整備などを実施。作業後はグラウンドゴルフなどを楽しんでいる。

ヤマアカガエルの産卵

二月の一番早い雨の日に産卵するヤマアカガエルが一月三十日の雨の日に産卵した。ここ、十年の産卵周期をみると年々早くなっている。これも、温暖化の影響か？



そーいやあ、子供の頃に仏坂のツララが三月になると溶けてカリーン、カリーンと落ちる音を聞いたもんだが、今は聞かんのん・

今後の予定

- ・二月二十日、明朗クラブ研修旅行
- ・二月二十二日、名古屋大学・上海社会科学学院研修対応
- ・三月二十六日、TBS PM9:00 リーダーズ2放送予定

発行 平成二十九年二月二十日
鞍掛山麓千枚田保存会
発 文 責 小山舜二